



もも組だより<7月号>

平成30年7月20日



ことり保育園担当:海老澤

空にくんぐん伸びていくひまわりが

太陽のような花を咲かせ、暑い夏がやってきました。



保育園の周辺を散歩すると近所の畑には、夏野菜のトウモロコシやナス・ピーマンがたくさんおぼえています。子ども達に「実がぼぼっているよ」と伝えると、しゃがみ込んで、「どこに実があるのかな?」と探す姿が見られます。園庭のアラントーに植えたミニトマトも緑から赤に色付いたので、収穫してみることにしました。「赤い実は何かな?」と尋ねると、じっくり選ぶ、「これだ!」と思うものを見つけ指を差していました。「採ってごらん」と促すと、小さな手でミニトマトを握り、力を入れて引っ張っていました。フツッと入った部分から外れると、手の上で転がるトマトを見て、ニコリしていました。今後も身近な野菜や植物の変化に興味を持てるよう働き掛けていきたいと思っています。



排泄面では、保育者がオムツの入ったカゴを手にすると、「トイレ」と言って進んでトイレに向かう子、オムツにおしっこが出ているとお腹の辺りをトントン叩いて、「出ているよ」と教えてくれる子もいます。また、オムツに出ているからなので、オマレに座るよう促し、座っていると、「シャー。初めてオマレでおしっこが出て、とても驚いた表情をしていました。排泄に関してはまだ関心を示さない子でも「スポン履こうね」と声を掛けると、足を入れようとして、ウエスト部分を持って「どうやるのかな?」と考えたりしています。

一人ひとりのペースに合わせてながら、トイレトレーニングを行っていきます。出来たこと・やってみようとしたことを大切にし、たくさん喜び、たくさん褒めながら保育していきなさいです。

